

山口市フィールド調査レポート

「文化の里 古田紹欽記念館」

社会福祉学部社会福祉学科3年 大橋優太

1、古田紹欽の概要

1991年岐阜県山県郡伊自良村（現在山口市）大森に生まれる。1936年東京大学文学部印度哲学科卒業。世界的仏教学者鈴木大拙に師事しその世界観を学ぶとともに、財団法人松ヶ岡文庫の創設に尽力。北海道大学教授、日本大学教授、学習院大学、東京大学、中央大学等の講師を歴任。晩年も財団法人松ヶ岡文庫長、花園大学客員教授として活躍。文学博士。

2001年1月31日、89年の生涯を閉じる。

著書に、「古田紹欽著作集」全14巻（講談社）、「日本仏教思想史の諸問題」（春秋社）、「草庵茶室の美学」（淡交社）、他にも100余冊がある。

*公益財団法人松ヶ岡文庫（まつがおかぶんこ）は、神奈川県鎌倉市にあり、仏教、禅宗に関する文献図書の収集及び保存、禅宗に関する書籍の編纂刊行などの事業を行っている公益法人。

1941年に鈴木大拙が東慶寺境内に文庫を設立したのが始まりである。大拙の死後、住職の井上禅定の尽力により、財団法人として大拙が残した膨大な書籍を管理する団体となった。以降、『財団法人松ヶ岡文庫研究年報』を発刊するなどの研究活動を行っている。

2、古田紹欽記念館の概要・バリアフリーについて

2-1 概要

落ち着いた雰囲気の中で、古田紹欽氏が語る美しい心の世界に触れるとともに、日本文化や山口市の文化の素晴らしさを知っていただくことを目的に、平成15年11月3日に開館した。

■第一展示室／紹欽氏の書、画および交流関係の展示

■学びの間／紹欽氏の生い立ちや講演会をはじめ、市の歴史文化、観光スポットなどを映像で紹介

■紹欽心の間／紹欽氏の部屋をイメージ。心の世界に浸り自分と向き合うことのできる空間。

■第二展示室／紹欽氏の著書を中心に関連図書を配架、図書の貸し出しも行う。

■百道菴（ひゃくどうあん）／講演会、茶会、会議など開催するほか、貸し出しも行っている。通常一般開放。

■抹茶体験／庭を眺めながら百道菴で体験できる（1服400円菓子付）



2-2 バリアフリーについて

入口から本館までつながる回廊は、多少の凹凸はあるものの、広々としており障害物もなく車いすでも難なく通ることができる。本館の入口は自動ドアで段差もない。展示室は多少狭い所もあるが幅は9m確保されており広々としている。段差のある個所には「段差注意！」と床に書かれている。スロープも用意されており車いすでも快適に回ることができる。一階から二階に上がる階段には手すりがついているが若干急であり、エレベーターは設置していない。2階は小さな一室しかないため不要という判断であると予想される。

館内は広々としていて段差は全くと言っていいほどなくスロープの設置もされており安全である。ビデオや音声案内のようなものもあったが目の不自由な人に対しての点字や点字ブロックなどの配慮はされていない。要望があれば館内の説明をしていただければ手話での対応は困難であり筆談で対応している。

正面玄関の付近に貸し出し用車いす、多目的トイレが設置されている。車いすは自走式ではなく、タイヤの空気の量が少なく錆びついており危険で座席のシートも汚れており使用するのには問題がある。多目的トイレに関しては入口の幅やトイレ内も車いすで使用するのに十分で、電気のスイッチや鏡の位置も配慮されている。

3、まとめ

古田紹欽記念館は落ち着いた雰囲気、だれでも気軽に利用できる場である。スロープの設置や注意の張り紙もされており安全な館内である。欲を言えば点字等の視覚障害者に対する配慮、貸し出し用車いすの手入れにも気が使えれば更に良い施設になると思う。施設付近には山口市図書館、伊自良老人福祉センター、伊自良総合運動公園と様々な施設が集合しているのでイベントを積極的に行うことでますます活性化に繋がると考える。

